

貿易交渉委員会等の結果概要

I. G10 閣僚会合

1. 時間・場所： 7月1日(土) 10:00～10:50 於:EFTA 会議室
2. (1)我が国からの出席者:中川農林水産大臣、木下農林水産審議官、村上特別補佐官、吉村国際部長、大杉国際貿易機関室長、藤崎寿府代大使ほか
(2)G10各国からの出席者:(スイス)ダイス経済大臣、(ノルウェー)ストール外務大臣、(モーリシャス)ドゥールー外務貿易大臣、(韓国)ミン農林部次官ほか(台湾、イスラエル、アイスランド、リヒテンシュタインから事務レベルが出席)
(3)EUからマンデルソン貿易委員ほかが出席。

3. 概要

中川大臣、マンデルソン委員から、30日に行われたG6閣僚会合の概要を紹介し、交渉の現状や、ファシリテーターとしてのラミー事務局長の役割を含む今後の交渉の進め方等について意見交換を行うとともに、G10とEUとの一層の協力について確認。

II. 閣僚級グリーンルーム会合

1. 時間・場所： 7月1日(土) 11:30～13:30 於:WTO本部
2. 我が国からの出席者:中川農林水産大臣、二階経済産業大臣、村上特別補佐官、北村通商政策局長、藤崎寿府代大使

3. 概要

ラミー事務局長から、30日夜のG6閣僚会合での議論を報告した上で、今後の扱い等に関して議論を行い、① 本年7月末、12月末に予定している成果に向けて努力を続けていくこと、② ラミー事務局長をファシリテーターとするプロセスを進めること等について、意見が一致。

III. 貿易交渉委員会(TNC)

1. 時間・場所： 7月1日(土) 15:15～17:00 於:WTO本部
2. 我が国からの出席者:中川農林水産大臣、二階経済産業大臣、木下農林水産審議官、村上特別補佐官、吉村国際部長、大杉国際貿易機関室長、北村通商政策局長、小川通商機構部長、藤崎寿府代大使、近藤国際貿易・経済担当大使 ほか

3. 概要

- (1) 冒頭、ラミー事務局長から、今回、農業、NAMA のモダリティ確立のために自分がシャトル外交を行うことを各国から示唆され、主要国から順にそれを行っていくこととした旨発言。
- (2) これを受け、各国からは、ラミー事務局長をファシリテーターとした今後のプロセスを支持し、本年7月末、12月末の期限に向けて努力を続ける旨発言。主要国の発言は、次のとおり。
 - ①（我が国） 合意に向けて各国が歩み寄るためには、攻める側、輸出国側がまず譲歩すべき。香港閣僚会議以降の議論の成果を後戻りさせることなく、本年12月末の交渉終結期限を目指して議論を継続していくことが重要。
 - ②（EU） この状況に絶望してはならず、ベストを尽くすべき。米国のTPAの期限は迫っており、本年中に交渉を終結させる必要。時間を無駄にしてはならない。フル・モダリティについて7月末に合意すべく努力を続ける必要。
 - ③（米国） 事務局長による今後のプロセスを支持するが、現段階では失敗と言わざるを得ない。ドーハ・ラウンドに対するコミットは続ける。
 - ④（ブラジル） 各国がそれぞれ最終的に求める合意の姿は、それほど違わないのではないか。ラミー事務局長による各国との集中的な協議により、各国が真に考えるものが明らかとなり、隔たりが小さくなっていくことを期待。
 - ⑤（インド） 先進国がリーダーシップの一部を発揮すべき。開発ラウンドであり、途上国の様々な関心事項に対処する必要。事務局長による2週間の集中的な協議プロセスにより、公正で客観的な評価を行い、収れんのあった点を報告してもらいたい。
 - ⑥（豪州） 着地点は手の届くところにある。当初からの野心の維持にコミットしている。ラミー事務局長の努力が功を奏することを期待。
- (3) 最後に、ラミー事務局長から、① 交渉は危機的状況にあり、農業、NAMA のモダリティの早急な確立のため、事務局長が集中的で幅広い協議を行う、② その協議は2つの交渉議長テキストに基づいて行う、③ できるだけ早くTNCに報告する、④ その場合にも、加盟国が主役であり、ボトムアップ、透明性等が確保される、というプロセスが示され、各国合意。